

子ども家庭支援について

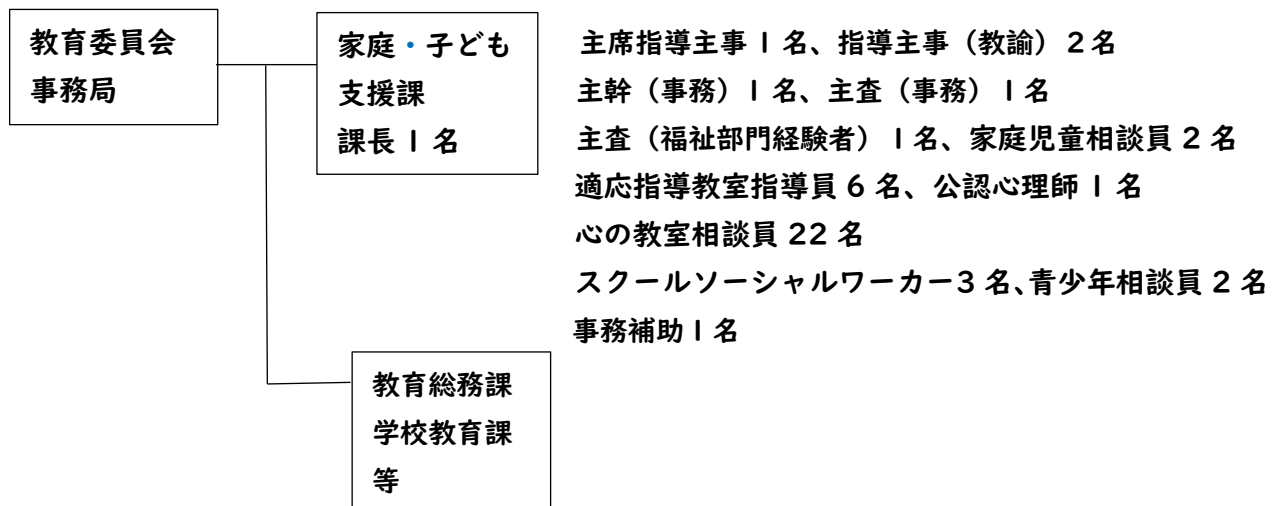
～ あせらず ゆっくり みんなで ～ 子ども支援課【あゆみ】

～ きっと ずっと つながる ～ 家庭支援課【きずな】

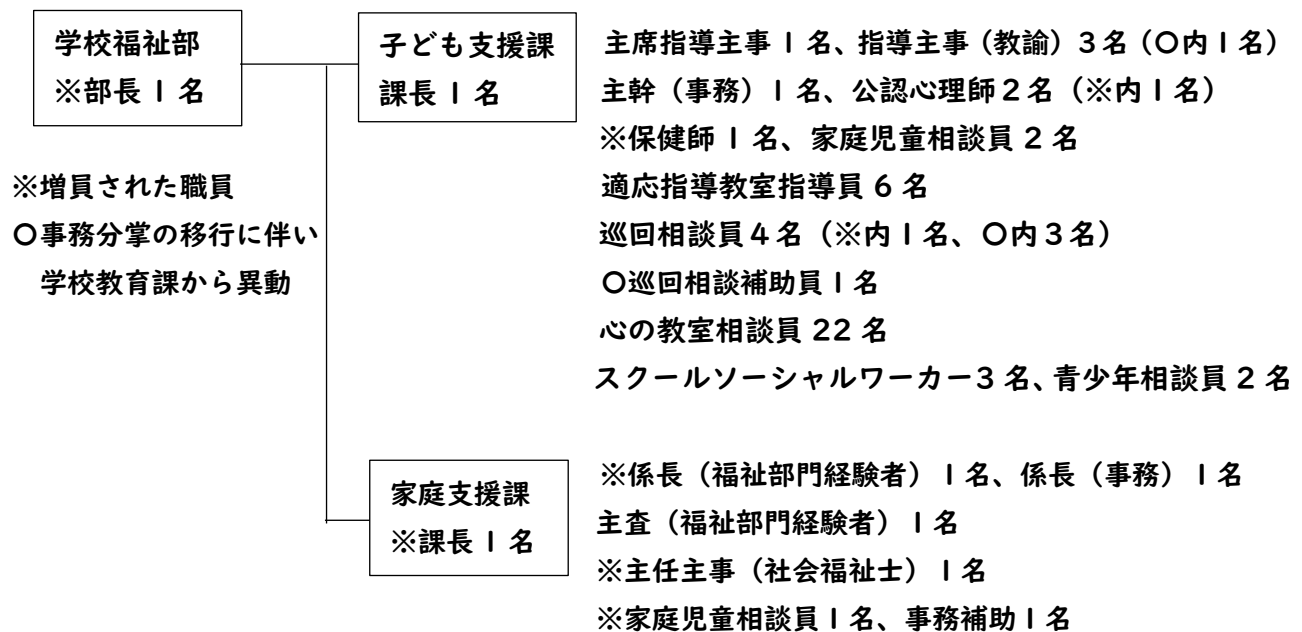


1 学校福祉部の組織体制

令和4年度



令和5年度



2 子ども家庭支援の状況

(1) 支援対象児童生徒数(人)

	R4年度(当初)			R4年度(3月末)		
	学校 依頼	保護者 依頼	計	学校 依頼	保護者 依頼	計
はじめの一步(児童生徒への対応)	30	10	38※	45	17	61※
ささえて一步(家庭問題への対応)	4	1	4※	15	4	17※
いっしょに一步(学校生活への対応)	2	1	3	3	9	12
計	32※	9※	40※	46※	21※	65※

※重複する場合があるため、計とは一致しない。

(2) 家庭訪問等の実績(回)

	R3年度に 実施した支援		R4年度に 実施した支援	
学校や関連機関と行ったケース会議等の回数	123		132	
家庭訪問で直接支援した回数	386	620	364	703
公民館や学校等で直接支援した回数	234		339	
保護者と面談した回数	237		235	

(3) 改善等が図られた児童生徒の状況(人)

児童生徒の状況		R3年度		R4年度	
登校できた	相談室等に通うことができた	24 ※	6	40 ※	12
	相談室等に定期的に通うことができた		6		13
	教室に通うことができた		14		8
	教室に定期的に通うことができた		1		12
適応指導教室やフリースクールとつながった	適応指導教室等に通うことができた	16 ※	9	20	6
	適応指導教室等に定期的に通うことができた		7		14
生活の改善(安定)が見られた	精神的な安定や向上が見られた	28 ※	22	30 ※	23
	生活習慣が改善された		10		5
	親子関係等の家庭環境が改善された		10		13
新たに医療とつながったり、検査が行えたりした		10		5	
新たに関係機関とつながった		8		4	

※重複する場合があるため、計とは一致しない。

(4) 一時休止・終結とした児童生徒数(人)

	R4年度 支援対象	R4年度 一時休止	高校進学等によ り終了	R5年度 支援対象
はじめの一步 (児童生徒への対応)	61	20	11	30
ささえて一步 (家庭問題への対応)	17	3	3	11
いっしょに一步 (学校生活への対応)	12	5	0	7
計	65※	23※	11※	31※

※重複する場合があるため、計とは一致しない。

3 令和5年度の支援事例

事例1 あゆみときずなが連携して対応した事例

はじめの一步、ささえて一步(中1 男子 学校とあゆみ、きずなの連携)

- ・小4から不登校。ひとり親家庭で母子共に人を避ける傾向で接触が難しい状況であった。
- ・中学校とあゆみ・きずな職員で合同ケース会議を行い、適応指導教室への通学支援について、情報の共有及び連携の確認を行った。
- ・これにより、本世帯へのポスティングをきっかけとして、これまで接触困難であった母子と円滑な面談に成功した。
- ・前年度までは、生徒と保護者と同時に2人を相手に話をしなければいけなかったが、生徒とあゆみ職員(指導主事)が話をする横で、きずな職員(福祉部門経験者)が保護者と話をするといった、専門性をもった職員が連携しながら効果的な面談を実施することができた。
- ・本生徒については、未だ適応指導教室へ安定的に通うまでに至っていないが、今後も母子と信頼関係を構築しながら、生活困窮など他の課題についても総合的に支援を継続していく方針である。

事例2 保健師がかかわった事例

はじめの一步、ささえて一步(中1 女子 医療、学校との連携支援)

- ・生後9か月でがんを発症し、辛い治療に耐え、また友達とのトラブルが原因による小学校3年からの不登校傾向を乗り越え、この4月から中学校へ進学し、毎日登校ができています。
- ・がんは完治したものの、治療の影響で後遺症があり、母も本人も、小学校から中学校への繋がりを心配していた。そのため、関係機関(病院医療スタッフと学校、学校福祉部)で、情報共有とこれからの支援についてリモート会議を開催した。
- ・本人が望む学校生活を送ることができるよう、あゆみが学校訪問を通して本人の気持ちを確認し、母とも連絡を密にすることで関係性を築くことができた。
- ・その後、本人は担任と良い関係を築くことができていると、毎日がすごく楽しい様子であると母から報告があった。今後、母との信頼関係を保ち、学校訪問を継続しながら、後遺症のケアの面も含め、心身両面の見守りを続けていく。

事例3 公認心理師がかかわった事例

- はじめの一步・いっしょに一步(小5男子・中1女子 保護者支援・関係機関との連携支援)
- ・姉弟で小2から不登校。姉は令和5年度より毎日登校し、授業に参加している。学習態度は良好であるが、家では大泣きすることもある。弟も、令和5年度より週2日学校へ登校し、授業に参加している。認知特性に偏りを持っているため、学級でも配慮がなされている。
 - ・保護者は熱心な思いと、強い不安を持っており、本人らを取り巻く関係機関との連携を強く願っている。
 - ・本人の発達特性や環境による表れの違いを保護者と関係機関で共通理解を図り、発達特性に合わせた学習方法や個別の声掛けなど関わりについて公認心理師から提案し、現状に合わせた支援目標及び支援方法のアップデートを継続的に行っていく。

4 成果と課題

(1)成果(まとめ)

令和4年度は、前年度からの対応に加え、新たに25人の支援を行い、合計65人の児童生徒を対象に、多様な困り感に寄り添いながら、関係機関と緊密に連携するなどして、児童生徒や背景にある家庭の問題の解消に向けて取り組んだ。

この結果、23人の児童生徒について支援目標を達成し、支援を一時休止とすることができた。また、「3 令和5年度の支援事例」にあるように、学校福祉部が設置されたことにより、専門的な職員が配置され、複雑で困難な課題を抱えるケースにも手厚い支援を始めている。

(2)課題

現在、学校福祉部での支援対象は、学校や保護者からの相談依頼によるものが大半であるが、8月を目途に設置する「こども家庭センター」との連携により、支援対象ケース数は増加する見込みである。また、学校では課題が発生・発見されていない要支援ケースに対しても、児童生徒が安心して通学が続けられ、不登校などへの状況悪化を未然に予防する取り組みとして市内4校を指定して研究を始めており、今後その成果を市内全校に還元していくことを計画している。